



平成23年9月5日

卓話 『日本アマチュアゴルフ選手権は、
日本人参加者ゼロで始まった』

相模カンツリー倶楽部 正会員

高木 邦雄 様

高木でございます。ゴルフは一度ラウンドすれば大体の方とはお友達になれるという素晴らしいスポーツだと思います。日本のゴルフの歴史について、私、一種の義務感で、カップその他、主に戦前のものを収集しました。コレクションの方法はインターネットオークションです。スタートが100円とか1000円とかで銀カップが出るんですけども、なんと秤に乗せられた写真が出てくるんです。要するに銀のグラムいくらなんです。これは大変だと思ひまして15年ぐらい前から始めました。その一部をお持ちしました。

まず日本のゴルフの大元を開いた神戸ゴルフクラブ。これは六甲山の頂上に明治37年にできました。戦時体制下ゴルフは弾圧され、昭和19年に日本のゴルフ場はすべて消滅しています。戦後、それを復興したのはアメリカ人。芋畑になっていたのを米軍の兵士たちが復興させ、数年間は米軍接收のコースが多かったのです。そもそものスタートは明治34年、六甲山に住んでいた英国の貿易商アーサー・H・ブルームが、友人の勧めでまず4ホール作ったこと。明治36年には9ホールになり、盛大に神戸ゴルフクラブを発足させ、明治37年には18ホールになりました。それに刺激された横浜の英国人の商社マンたちが根岸の競馬場に9ホールのコースを作り、明治40年には神戸と横浜のメンバーが対抗戦をやっていました。その時の個人戦がジャパン・アマチュア・ゴルフ・チャンピオンシップ。ここにその第4回のレプリカがあります。

日本人が初めて参加したのは10回目、大正5年です。それから日本人が参加するようになっ

て、大正13年に日本ゴルフ協会、JGAが発足しました。この時、この日本アマチュアゴルフ選手権の開催権を日本に譲ってもらい、それでJGA主催の第1号ができたんです。その時の加盟クラブは7コース。昭和5年には14コース、15年には45コースに増えています。大体大正の終わりから昭和12年、日中戦争が始まるまでが日本のゴルフ発展の時代です。

その後、戦時体制に入った頃の極め付けがここにある南京陥落万歳杯。昭和12年12月、茨木カンツリークラブ。まさに南京陥落の時にこういうコンペをやっている。この辺からかなりきな臭くなり、物資が統制されます。ゴルフではアイアンが製造禁止。ボールはゴムですから製造禁止。金属製の賞杯も禁止。すごいのはガソリンが統制されたのでクラブバスが運行禁止。そこで小金井カンツリーや東京クラブ、藤沢カントリーなんかは駅馬車でメンバーを運んでいたようです。

ここにお持ちしたゴルフ雑誌「日本ゴルフ」は大正11年の創刊で昭和19年まで発行され、最後は「日本打球」という名で終わっています。これを見ますと戦前の日本のゴルフの発展、消滅の中で、これだけゴルフ好きの方が守ってくれたということがわかって嬉しいですし、これからもそれを守っていくのは我々の責任だと思います。

ご静聴ありがとうございました。

